

企画展 美男におわす

2021年11月27日(土)～2022年1月24日(月)

(前期：11月27日～12月20日／後期：12月22日～1月24日) *会期中で展示替えがあります。(前)前期展示／(後)後期展示
ただし、展示の事情によりこれらが変更されることもあります。

日本美術史において、「美人画」は、絵画のなかでも人気のジャンルであり、広く認知されていますが、「美男画」というのは、あまり聞き慣れた言葉ではありません。しかし男性像が描かれてこなかったわけではなく、どの時代においても人々は男性像に理想を投影し、心をときめかせてきました。あるときは聖なる存在として、またあるときは憧れのヒーローとして、あるいは性愛の対象として、さまざまな男性像が表現され、老若男女問わず広く受容されてきたといえます。

本展は、絵画をはじめとする日本の視覚文化に表された美少年、美青年のイメージを追い、人々が理想の男性像に何を求めてきたかを探る試みです。美術史の分野において、男性を美しいものとして表現すること、見ること、そして語ることに、まだ十分な光が当たっているとは言えません。ライフスタイルや嗜好が多様化した現在「美男画」との出逢いはどのようなものになるのでしょうか。時代やジャンルを問わず、多彩な男性像を一堂に集め、その制作や受容の背景、そして男性像のこれからについて考えます。

みどころ1：多種多彩な美男が集結！

江戸時代の絵画には、美男がたくさん登場します。鈴木春信や喜多川歌麿は、美人画を得意とした浮世絵師ですが、美人に劣らぬ美男をそのかたわらに描きました。また、踊る姿や宴席に待る姿など、時に性愛の対象ともなった若衆の美しさは、絵画の格好の題材となりました。そして令和の現在。美男を扱ったマンガやアニメ、ゲームなどは昔から変わらず人気です。今回少女マンガから、竹宮恵子『風と木の詩』、山岸涼子『日出処の天子』、魔夜峰央『パタリロ！』など、名作が生んだ美男キャラ達の美しいイラスト・マンガ作品がお目見えします。



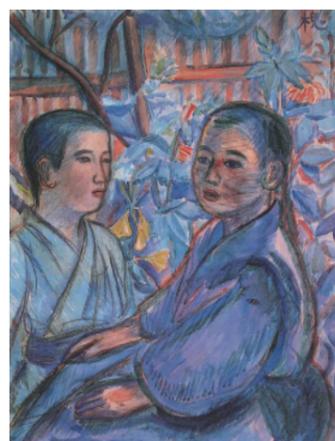
宮川一夫《色子(大名と若衆)》
18世紀(江戸時代中期)
たばこと塩の博物館蔵(前)



喜多川歌麿《忠臣蔵 五段目》
1790年代頃
島根県立美術館蔵(後)



絵師不詳《男舞図》
1661～77年頃
東京国立博物館蔵(前)
Image:TNM image Archives



村山樵多《二人の少年(二少年図)》
1914年
水彩、紙 世田谷文学館(寄託)蔵(前)



竹宮恵子《高貴なるもの》(『風と木の詩』より) 1976-84年 原画ダッシュ
京都精華大学国際マンガ研究センター蔵
©1976-1984 Keiko TAKEMIYA 『風と木の詩』
「高貴なるもの」*この作品のみ写真提供不可



山村耕花《梨園の華 初世中村鴈治郎の西半七》1920年
多色木版、紙 島根県立美術館蔵(前)

鎌倉や

御仏なれど

釈迦牟尼は

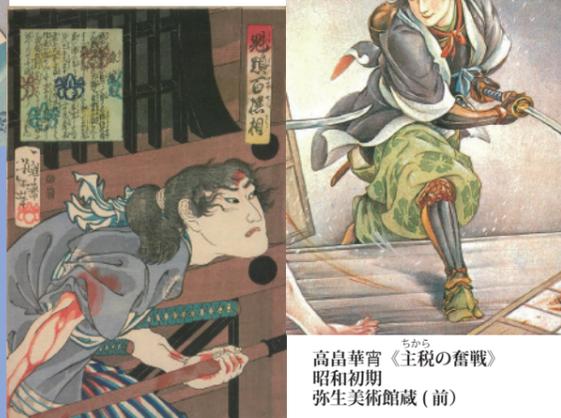
与謝野 晶子

美男におわす 夏木立かな

みどころ2：歴史上の美男といえば…

歴史上の美男と言えば、源義経、平敦盛、森蘭丸などが思い浮かびます。日本画家の安田鞆彦、菊池契月、松岡映丘らが彼らを主題に描いた麗しき人物画は近代日本画の名作に数えられます。また、幕末から明治にかけて闘う男たちをドラマチックに表現した歌川国芳や月岡芳年。大正から昭和にかけて少年少女の間で絶大な人気を誇った高島華宵や伊藤彦造の美男像にも大注目です。

月岡芳年《魁題百撰相 森蘭丸》
1868年
町田国際版画美術館蔵(前)



高島華宵《主税の奮戦》
昭和初期
弥生美術館蔵(前)



菊池契月《敦盛》
1927年
京都市美術館蔵(後)



松岡映丘《屋島の義経》
1929年
東京国立近代美術館蔵(前)



安田鞆彦《鞍馬寺参籠の義経》
1974年
滋賀県立美術館蔵(前)



木村了子《男子楽園図屏風—EAST & WEST》2011年 作家蔵
撮影：宮島径

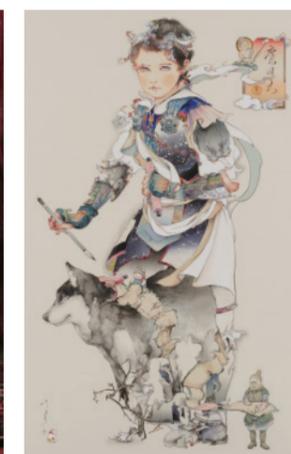
みどころ3：個性あふれる「美男画」の競演

現在活躍中の新進気鋭の作家らによる個性あふれる男性表現も、本展の大きなみどころのひとつです。美人画などにみられる日本画の伝統的手法を男性美の表現に用いる木村了子や、独自の手法で版画の新たな可能性を追求する入江明日香、西洋の古典的モチーフを取り入れファンタジーな世界を創り出す唐仁原希、幻想的かつ華やかな画面構成で少年少女を描く川井徳寛など、多種多様な作品群が並びます。

美男におわす展巡回館：
2021年9月23日(木・祝)～11月3日(水・祝)
埼玉県立近代美術館



唐仁原希《キミを知らない》2015年
作家蔵



入江明日香《廣目天》2016年
丸沼芸術の森蔵

【主催】島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、中国新聞社、日本海テレビ

【開館時間】9:30～18:00(入館は18:00まで)

【休館日】毎週火曜日 12月28日～1月2日は休館

【観覧料】※()内は、20名以上の団体料金

〔企画展〕一般1,000(800)円、大学生600(450)円、小中高生300(250)円

〔企画・コレクション展セット〕一般1,150(920)円、大学生700(530)円、小中高生300(250)円

【問合せ】〒698-0022 島根県益田市有明町5-15 島根県芸術文化センター「グラントワ」内 島根県立石見美術館

TEL0856-31-1860/FAX0856-31-1884 <http://www.grandtoit.jp>

担当：吉岡恵(広報) 田原(広報) 左近充直美(学芸) 川西由里(学芸)



島根県芸術文化センター
SHIMANE ARTS CENTER
島根県立石見美術館
IWAMI ART MUSEUM